

第1回花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議（会議録）

1 開催日時

平成27年5月7日（木） 午前10時00分 ～ 午前11時55分

2 会場

本庁舎3階 302から304会議室

3 出席者

花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員16名：中村良則座長、齋藤俊明委員、
佐々木一夫委員、似内英悦委員、小原宏委員、高橋専太郎委員、宮澤啓祐委員
藤沼弘文委員、佐々木博委員、木村稔委員、小原和雄委員、佐々木安浩委員、
漆沢俊明委員、谷藤和彦委員、村上弘明委員、菊池文彦委員

市側：上田市長、八重樫総合政策部長

事務局：秘書政策課企画調整係（伊藤課長、似内課長補佐、寺林企画調整係長
ほか）

4 会議内容

【1 委嘱状交付】

出席委員16名に対し、市長から花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議委嘱状の交付。
（欠席 岩淵満智子委員）

【2 開会】

【3 市長あいさつ】

（上田市長） 第1回花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議に連休明けのお忙しいところ参集いただき感謝。花巻市内を中心として県内各層の有識者にお集まりいただいた。当初、もう少し人数を多く考えていたが、会議人数をしばった理由は、実質的な議論を行っていただくためであり、皆さんの忌憚のないご意見、建設的なご意見を伺いたいとの思いからこの人数とした。形だけではなく、中身のある、一緒に花巻市を良くしていただく議論をお願いしたい。

花巻市では、人口減少対策、定住人口の維持については、昨年度から実施しており、平成26年度3月補正予算や平成27年度予算で幼児の医療費助成、予防注射助成、子育てについても考えている。また、市外からの人を花巻で正規雇用した場合の助成、住宅取得の助成を実施している。

まち・ひと・しごと創生に関しては、他の市に負けておらず一步先んじて行っていると

いう自負している。これは、昨年、若い職員で検討していたことから、実行できたことと考えているが、油断していると他の市に後れをとることもありうる。国が全体でもって取り組むという姿勢を出している。花巻市としても総力を挙げて取り組む必要があると考えている。

地方人口ビジョン、地方版総合戦略について本年度中に策定しなければならない。この策定についてそれぞれの有識者の立場から意見を伺い、花巻市が維持発展できるようにしていきたい。ご協力をお願いしたい。

【4 座長選出】

座長に中村良則委員が選出。

【5 座長挨拶】

(中村座長) 花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議の座長にご指名いただいた。何らか委員長や座長を受けた経験があるが、今回は身の引き締まる思い。また、任の重い仕事と考えている。

増田レポートが出てから、一挙に人口減少対策が国の基本方針となった。全国で街づくり人口減少対策に対しての取り組みを、どの街も行っている。花巻が特別に人口減少に歯止めをかけ力強い街づくりを進めていく施策を具体的に考えていかなければならないというのが市に課せられた課題である。それに対し建設的な意見を提言する場が本有識者会議である。非常に任の重い会議と考えている。皆様の見識を出していただき花巻市のビジョンを具体的な形で結びつけていきたい。ご協力をお願いしたい。

【6 副座長指名】

中村座長が座長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する者に齋藤俊明委員を指名。

【7 説明】

(伊藤課長) 配布資料により「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定について説明。

(寺林係長) 配布資料により花巻市人口ビジョン・総合戦略策定関連データについて説明。

【8 質疑・意見交換】

(木村稔委員) 県のも昨年来人口減少対策の分析を重ね、3月に公表。人口ビジョン、総合戦略については6月に素案。本年度前半9月から10月に策定予定。資料No3のP16になるが岩手県ではずっと転出超過になっている。花巻市では199

5年から2000年に転入超過になっているが、どうしてなのか。また、P18ページの女性の30～34歳に転出が多いが分っている範囲で理由を教えてください。

(寺林係長) P16については、まだ分析をしていない。P18については、他の年度は動きが違う。今後、転出入者や女性の子育て、出産、結婚に対するアンケートを実施し意識調査をしていきたい。また、花巻市は未婚率も高いので意識調査をしてデータ提供をしていきたい。

(中村座長) 転入、転出というのは、県外に対しても含まれるのか。

(寺林係長) 市外への転出、市内への転入であるので県外も含まれる。

(藤沼弘文委員) 転出する、転入するには条件があると思う。それをある程度数値化するの大事だと思う。

私たちがいくら集まっても無理なものを論議するのではなく、これをやったらいいのではないか、というものを分けて会議を行ってほしい。

(伊藤課長) 市役所の窓口で転出入者へ転入、転出理由についてアンケートを行っている。また、アンケート調査による追跡調査も行う予定。新たな数字、分析ができ次第、順次示していきたい。職員は数字の分析が弱いので大学や研究機関への委託も考えている。数字に意味を持たせて提示していきたい。

職員の中でワーキンググループにも同じデータを出している。そのうえで花巻市がやっていくべきであろうというものを外部の意見を聞きながら取りまとめをしていく。そこを示して花巻市は特にどんなことをやっていかなければならないか、どんなことが皆で出来るのかという議論をお願いしたい。

(齋藤俊明委員) データは問題ないであろうが、量的な分析しか示されておらず、質的なものがわからない。また、地域的なものはわからない。農村地帯の分析がされていない。農村地帯からどれだけ流出しているかあるいは後継者がいなくて農業を廃業している人もいると思う。今の動態だと、周辺部がどんどんいなくなり、中心部に集まることなく、東京や仙台に行っていることがあると思う。

周辺部の人口動態がどうなっているのかを集落単位で分析したほうが良いのでは。

ヒアリングしながらどういう状態になっているのか把握することがきめ細かな分析になると思う。

農業人口が多いので農業人口をどうやって維持していくのか。国も6次産業化と言っているがうまくいっていないのが現状。これからの仕事の創出、産業の活性化していくにあた

って何が必要かを考えなければならない。地域が消滅していくということにも目を向けて分析していかないとこのデータだけではわからない。

国調のデータ以外に地域ごと、集落ごとのデータもあるので、一人世帯がどれだけあって後継者がいる世帯がどのくらいいるのかといったことを押さえていくともう少しきめの細かい花巻市の全体の活性化につながっていくようなビジョンが描けるのではないか。

(伊藤課長) 地域の分析をしていかなければならないと思っている。細かい部分について掘り下げていかないといけないと思っている。

(中村座長) 人口のデータというのは、計画を考えていくための一番の基礎資料。正確に把握していかなければならないが、実際はものすごく細かい作業である。それぞれの人はどうして地域から出て行ってどうして戻ってくるのかということ等相当推測を重ねないと。そのためのアンケート調査でもあると思うが。スケジュールについて、どれほどの作業になるのか、どの程度の話をするればいいのか。

(寺林係長) 人口ビジョンに関しては、アンケートを行うが、いろいろなシミュレーションをしていかなければならない。50年後の人口ということでかなりの議論が必要と考えている。また、地域ごとのデータ把握も必要と考えている。

地方版総合戦略については、5年間を目標とした計画。今ある事業を入れながら、国の基本目標に倣って4つのワーキング作っており、花巻の特徴、特性を生かした事業ができなにかというのを今検討している。

総合戦略は改訂もありうるのでローリングしながら、事業を構築していくことを考えている。10月には案の策定をしたいと考えている。また、2月に向けて予算編成もあり皆さんの意見を聞きながら来年度事業の構築をしていきたい。

(藤沼弘文委員) 問題点を提示して、有識者会議で話をすれば出来るというのを出してほしい。

(中村座長) P34の女性の管理的職業従事者というのはどういうものを指しているのか。

(寺林係長) 国勢調査の項目。事業経営方針の決定、経営方針に基づく執行計画の樹立、作業と監督統制など経営体などの、課以上の経営管理に従事するものとなっている。

(中村座長) P29の正社員の状況について、花巻は全国よりいいということだが、3割は非正規。国の方針は正社員を増やしていくということだが、非正規が減っていくとい

う見通をしたてられるのだろうか。

(伊藤課長) 見通しということでは、難しいと思っている。しかし、取り組みはしていかなければならないと考えている。今年度から花巻市では、市外の既卒者を正規雇用した事業所に補助を出すことを行っており、数字としての目標は難しいが、取り組みとして行っていくのは必要。

(中村座長) 雇用の基盤を作っていくのが総合戦略の柱となると思うが、雇用については市が方針をたててもどうにもならないものがある難しい問題でもあると思う。どこをどう変えていけば効果があるかを考えてほしい。

(佐々木一夫委員) 新花巻市になってからしばらくになるが、各地域がどういう実態なのか。人口がどうなっているのかが見えてこない。しっかりとした地域のデータを提示してほしい。

策定スケジュールについて本当に大丈夫なのか。具体的な議論をするのはスケジュールが短いと思う。

(伊藤課長) データについては把握できるもの、推測できるものについては準備させていただく。スケジュールについては、厳しいが何とか頑張って策定したい。5年間で出来るものは何かとポイントを絞った計画になるかもしれない。論議をしながら進めていきたい。

(高橋専太郎委員) ただデータを出されても何を話せばいいかわからない。昨年行った人口減少ワーキンググループで行った議論を叩き台で出したほうが良いのでは。

(八重樫部長) 1回目の会議であったので説明中心となったことはお詫びする。

次回から素案の前のデータも内部で詰めて各分野を網羅したかたちで人口を確保していく戦略をどうすればいいのかというものを叩かれ台として出していきたい。

(中村座長) 5年後までに出生率を1.8にする。雇用機会を開拓していくという2つを具体的に行っていくためには何が必要かということが、人口ビジョン、総合戦略の役割。

(藤沼弘文) 花巻で出生率がもうちょっと増やせることがどうかということだと思う。皆の考えが同じ方向になるように、問題点を出してほしい。

(宮澤啓祐委員) 出生率と社会的増減という二つがある。社会的減少をプラスにしない

といけない。高校生は花巻の企業に就職したいという傾向が強い。それに答えられるような社会増が必要。住みたくなる街を目指すことも大事と考える。

(伊藤課長) 自然増、社会増のどちらも増加するのが望ましい。国では2.07と数字を出しているが、花巻として数値を定めるかどうかについてもこの会議で議論をお願いしたい。人が生まれて安心して住んでいくというのが一番大事なことだと考えており皆様と議論を行っていききたい。

【9 その他】

(伊藤課長) 次回以降の会議開催時について、現状のような時間でいいか、また、18時以降の開催がいいか。

(各委員) 今の開催時間でよい。午前であれば10時から、午後であれば1時30分からということをお願いしたい。

【10 閉会】